

国語 第5学年 本は友達

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

作家を手掛かりに本を選び、読書で得た考えを紹介し合う。学習の記録は、作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。
〔第5学年及び第6学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。

単元の目標

日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(3)オ）

文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（C(1)カ）

作家を手掛かりに本を選び、読書で得た考えを紹介し合う学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ）	①「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（C(1)カ）	①作家を手掛かりに本を選び、読書で得た考えを紹介し合う学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全5時間（読5）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。単元の終わりに残す記録を確認、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第2次	2	○教材を読んで紹介の観点をもち、同じ作家の別の本など関心に合う本を選ぶ。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確かめる活動）
第3次	3～4 （本時）	○教材を読んで紹介の観点をもち、同じ作家の別の本など関心に合う本を選ぶ。内容や表現の根拠からよさを紹介し、友達の見方を受けて読書の次の計画を考える。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	5	○選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。（C(1)力）

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 （ 分）	教材と学習に使う言葉を確認、問いについて今の考えを話す。 ○「同じ作家の本を読むと、どんな共通点や違いに気付きますか」 【めあて】作家を手掛かりに本を選び、読書で得た考えを紹介し合う。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ作家でも語り方の違う作品がある。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 （ 分）	○「同じ作家の本を読むと、どんな共通点や違いに気付きますか」 教材を読んで紹介の観点を持ち、同じ作家の別の本など関心に合う本を選ぶ。内容や表現の根拠からよさを紹介し、友達の見方を受けて読書の次の計画を考える。 選んだ言葉と、そこから考えたことの関係を自分の言葉で説明する。異なる考えは根拠を確かめて聞く。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ作家でも語り方の違う作品がある。 ・友達の紹介から別の本にも関心をもった。	作家の情報は本の奥付や図書館資料で確かめ、作品のよさは本文から説明する。 未確認の作者情報を補わない。 想定する難しさ：作家の人物紹介だけで作品を読んだ感想がない。 評価では、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかを、作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。（発言・活動中の記録・作成物）
まとめ （ 分）	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の紹介から別の本にも関心をもった。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ作家の本を読むと、どんな共通点や違いに気付きますか」。中央は、作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

作家の人物紹介だけで作品を読んだ感想がない。この難しさには、作家の情報は本の奥付や図書館資料で確かめ、作品のよさは本文から説明する。未確認の作者情報を補わない。評価では、文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げているかを、作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録
作家と作品の読書記録、内容を根拠にした紹介を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと
最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（5年）「5年」104行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo) https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

